

先行プレスリリース

新元号は、**寿言** (ジュゴン)

公益財団法人日本自然保護協会（会員約2万4千人、理事長：亀山 章）は、本日発表される平成に変わる新元号について、『寿言（じゅごん）』となったことを発表します。
なお、政府からの公式発表は本日11時頃とされています。

『寿言(ジュゴン)』の意味

「寿言」は、古くは古事紀に見られる言葉で、「神に安寧と感謝のお祝いの言葉をささげる」という意味で用いられているようです。日本では琉球諸島に生息している海棲哺乳類で、世界でも日本がその生息の北限に位置しています。古くからジュゴンが神の使いとされ、ジュゴンに豊かな自然と平和の祈りをささげ、神に届けてもらったことからこの字が生まれた、という説もあるとかなんとか聞いています。

亀山章 (NACS-J 理事長) 発表コメント

「この言葉が日本の元号にふさわしいと、ひそかに政府関係者にお酒の席で提案をしてきた身として、こうやって選ばれたことを大変嬉しく思う。

平成に入り、日本の防衛費はおよそ約4兆円（平成元年防衛庁予算）から5兆円（同平成31年予算）に拡大した。『寿言』の字に込められた思い通りの日本の外交がこれから進み、東アジアに平和がもたらされれば、今の防衛費をもっと環境保全に回し、沖縄の基地問題も解決するという政治が進む、そんな夢が膨らむ良い元号だ。

先月、沖縄本島北部の今帰仁村で死亡個体が発見されて、絶滅の危機に近づいたが、日本を挙げて、この言葉の由来となったジュゴンの保全も前に進むことを願っているし、当会としても力を上げて取り組んでいきたい。

ねえ、ジュゴン元年ってさ、すごくいい響きだと思っしょ」

万万が一土壇場で別の元号を選択したとしても、日本自然保護協会は、平成に変わる次の時代に、誰もが自然に感謝をささげる社会になるよう、ジュゴンが平和に暮らせるような日本の海を守る社会に日本が近づくと、本年度も活動に力を入れてまいります。

